

都市再生整備計画(第6回変更)

かなざわなんぶちく
金沢南部地区

いしかわけんかなざわし
石川県金沢市

令和6年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークابل推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	石川県	市町村名	かなざわし 金沢市	地区名	かなざわなんぶ ちく 金沢南部地区	面積	8	ha
計画期間	令和 元	年度 ～	令和 6 年度	交付期間	令和 元	年度 ～	令和 6 年度	

目標
南部地区における介護予防の拠点として都市機能を向上し、健康で質の高い居住環境を構築 目標1：介護予防・健康増進に資する拠点施設を構築 目標2：良好でゆとりある住環境の整備 目標3：「水」と「緑」を活かしたまちづくりの推進
目標設定の根拠
都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 金沢市は、日本海沿岸の中枢基幹都市であり、加賀藩の城下町として都市の礎が築かれ、その後、大きな災害や戦災を受けることなく、藩政期からの都市構造や街並み、伝統文化等の加賀百万石の趣を随所に残す歴史都市として発展してきた。金沢南部地区は、金沢市都市計画マスタープランにおいて、南部丘陵のふもとに広がるゆとりとうるおいのある居住環境を保全し、緑に包まれた安心、安全で住みよい住宅地として位置付けられている。このような中で、市人口は現在約46万人の横ばいから、今後減少に転じ、20年後には約3万人減少し、また、高齢者の割合は大幅に上昇することが予測されている。今後の人口減少や高齢化社会へ対応するため、金沢市都市計画マスタープランにおいて、都市全体の方針として、「原則として市街地の拡大をしない」ことを打ち出しており、「適正な土地利用計画の誘導と公共交通の連携により、主な都市機能を中心市街地及び都市軸に集約する」ことで、都市構造の集約化に取り組むこととしている。 また、公的不動産の活用方針については、公共交通を介した魅力的な都市空間と快適な居住環境の創出のため、地区の特性に応じた整備手法を用いた有効活用により、都市機能の集約・強化を目指す。優良な既存建築物が集積する地区においては、建て替えではなく、既存ストックを活かす建物のリニューアルに努め、教育文化施設や社会福祉施設等の整備に取り組む。 これらを背景に、より一層の都市の集約化を目指して、泉野図書館や泉野福祉健康センターが集中している地区を都市機能誘導区域に設定し、南部地区における介護予防の拠点として泉野福祉健康センターを再整備し、健康で質の高い文教地区を形成し、より質の高い住環境整備が進み、高齢者や学生など住民との交流、連携、協働による新たな地域づくりが図られるものである。 このように、金沢市が城下町として発展してきた歴史性と豊かな自然など、今日までその形態が承継されている人間スケールの都市構造を維持しつつ、歴史ある南部地区に磨きをかけ発展させる生活拠点の形成と交通軸との連携強化を図ること、将来的な社会構造の変化に対応した、安心して暮らせる持続可能で魅力と活力にあふれる都市づくりの実現を図る。
まちづくりの経緯及び現況
金沢市は、都市圏人口65万人を有する北陸有数の中核市として、前面に日本海、背後に白山山系に連なる山並みを配し、犀川、浅野川によりつくられた扇状地に市街地が形成されている自然環境豊かな都市である。金沢南部地区はその中でも伝統ある中心市街地に隣接し、南部丘陵のふもとに広がるゆとりとうるおいのある居住環境を保全し、高等教育機関や市立図書館が集積するなど、市内有数の文教地区として成熟したまちが形成されている。今後は、中心部へのアクセス性が高く、文教地区にふさわしい当該地区において、南部地区の介護予防の拠点を核とし、市民との協働により、定住、交流人口の増加を図っていく。
課題
局所的な宅地開発が引き起こす道路接続性の悪化や、商店街の活力低下により、地域住民の回遊性、地域のにぎわい、世代間交流が低下している。 介護予防施設を核としたまちづくりを展開し、道路、用水や緑地の整備を進めることにより、歩行環境を高め、まちの魅力や回遊性を向上させることで、地域住民の健康な生活環境の向上を図る。
将来ビジョン（中長期） 【総合計画】 金沢世界都市構想第2次基本計画（H18. 3）には、10の重点プロジェクトの一つとして「魅力と賑わいのある「快適都市」創造プロジェクト」が位置づけられており、この中で「金沢が本来有するコンパクトシティとしての都市創造を生かし、快適で賑わいと活力に満ちた中心市街地を形成する」といったまちづくりの方針が位置づけられている。 ・金沢市都市計画マスタープラン（H10. 3策定）（H21. 10見直し）には、南部丘陵のふもとに広がるゆとりとうるおいのある居住環境を保全し、緑に包まれた安心、安全で住みよい住宅地としての質的向上を図るとしている。 ・世界の『交流拠点都市金沢』をめざして（H25. 3策定）には、保健・医療・福祉拠点の連携・充実を図ることにより、健やかな暮らしを支えるまちづくりを推進することとしている。 ・金沢市集約都市形成計画（H29. 3）においては、中心市街地の南部における医療、福祉、健康、スポーツの集積地区として都市機能誘導区域に指定されており、誘導施設の整備が求められている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方
既に一定の商業、業務機能が集積している中心市街地を中心拠点区域として設定し、コンパクトなまちづくりを推進するため、まちなか居住機能と商業、業務機能をより一層強化する。具体的には、都心軸沿線での再開発事業や「まちなか定住促進条例」における補助制度等により良好な住環境の整備を行うほか、文化施設や公共施設を重点的に配置する。また、公共交通の活性化と公共交通重要路線の利便性向上により、適正な土地利用計画の誘導を図り、主な都市機能を中心市街地及び都心軸に集約する。
郊外部においては、自然環境を保全するとともに、主に郊外部に指定されている準工業区域に大規模集客施設の立地を制限する内容の特別用途地区を指定するなど、適正な土地利用により都市の拡散防止を図るとともに、公共交通重要路線沿いへの居住地集約化により、都心中心の生活スタイルへの転換を進める。
これらの都市機能配置により、金沢の豊かな自然や地形、歴史的都市構造、文化的環境を大切にしながら、保存と開発の調和するコンパクトなまちづくりを進める。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方
【『泉野福祉健康センター』の機能】
金沢南部地区における介護予防の拠点を新たに形成し、高齢者、若年世代を問わず、市民の健康づくりを推進する。
【定住促進・交流人口の拡大】
当施設を通じて、周辺の図書館等の公共施設と相乗効果を高めながら、歴史性や自然が色濃く残る地域への定住促進につなげる。
また、近接するスポーツ施設なども活用し、このエリアの魅力を一層高め、交流人口の増加につなげる。
【高齢社会への対応】
市民の健康を高め、高齢者世代の活力を高めるとともに、高齢者率の低減を図りつつ、高齢者医療費を低減する。
市民の健康を高める介護予防拠点施設を核として、良好な住環境を高め、定住促進や交流人口の拡大を図り、都市の再構築を目指す。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
周辺居住誘導区域内人口の社会動態	人／年	整備地区周辺居住誘導区域内の総転入者数が総転出者数を上回る	地区内人口の減少傾向の下げ止まり	平均△20人／年	H28～H29	平均+5人／年	R6
施設利用者数増	人／年	泉野福祉健康センター利用者の増	年間施設利用者数の増	35,000人／年	H29	38,500人／年	R6
公園の利用者数増	人／月	(仮)泉が丘おあしす公園の利用者増	1月あたりの利用者数増	平均2,000人／月	H29	平均3,000人／月	R6

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	
【介護予防・健康増進に資する拠点施設を構築】 ・介護予防の拠点を構築し、周辺の公共施設(市立図書館、公園)と一体的な整備・活用を進めることにより、文教地区における良好な居住環境を構築する。 ・老若男女を問わず心身ともに健康の増進が図られる施設が集約することで、健康寿命の向上を図る。	方針に合致する主要な事業 誘導施設:社会福祉施設(泉野福祉健康センター) 公園((仮)泉が丘おあしず公園) 関連事業(市立図書館)
【良好でゆとりある住環境の整備】 ・自然景観と歴史的建造物等が一体となった、芸術・文化の薫る品格あるまちづくりを推進する。 ・暮らしと一体となった景観の形成、緑の交流空間の整備など水と緑あふれるまちづくりを行う。	道路(十一屋・有松線道路整備事業) 公園((仮)泉が丘おあしず公園) 関連事業(市立図書館)
【「水」と「緑」を活かしたまちづくりの推進】 ・歩ける道筋を整備することで、回遊性を高め地域の交流を深めるネットワークを構築する。 ・世代間の交流を促進し、豊かな暮らしを実現する。	道路(十一屋・有松線道路整備事業) 公園((仮)泉が丘おあしず公園)
その他	
【まちづくりの住民参加】 ・地域の課題について、住民と市とが協働で話し合う「ともに考えよう まちづくりミーティング」を開催し、住民参加・協働を図っている。 ・地域団体の自主的な提案により、地域と行政とが協働でまちづくりに取り組む「共同のまちづくりチャレンジ事業」の実施。 ・平成22年度より施行した学生のまち推進条例(略称)のもと、学生、地域、行政等が連携し、まちなかを活性化する事業に取り組んでいる。	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

...B

	合計(A+B)	843.3
--	---------	-------

40

金沢南部地区(石川県金沢市)

面積

8 ha

区域

泉野町6丁目

※ 計画区域が分かるような図面を添付する

